



2017年5月期 決算概況

証券コード：3501
(東証一部上場)



目次

■ 表紙	1	■ 2018年5月期 連結計画	14
■ 目次	2	■ 2018年5月期 事業セグメント別計画	15
■ 2017年5月期(2016/6~2017/5) 連結業績	3	■ 株主配当について	16
■ 連結業績の事業セグメント別内訳	5	■ 第5次中期3ヵ年経営計画「2020」	17
■ インテリア事業	6		
■ 自動車・車両内装事業	7		
■ 機能資材事業	10		
■ 連結バランスシート	11		
■ 設備投資・減価償却費	12		
■ 有利子負債	13		

2017年5月期(2016/6～2017/5)連結業績

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比増減		期初計画	期初計画比増減	
			(%)	(額)		(%)	(額)
売上高	96,038	97,529	△1.5	△1,491	95,400	0.7	638
営業利益	1,297	2,553	△49.2	△1,256	1,540	△15.7	△242
営業利益率	1.4%	2.6%			1.6%		
経常利益	1,364	2,883	△52.7	△1,518	1,750	△22.0	△385
経常利益率	1.4%	3.0%			1.8%		
当期純利益	26	245	△89.2	△218	740	△96.4	△713
当期純利益率	0.0%	0.3%			0.8%		

為替レート (USD/JPY)	当期	前期
		108.89

※ 当資料の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を表している。

2017年5月期(2016/6～2017/5)連結業績

売上高 **960**億38百万円

前期 975億29百万円 計画 954億円

営業利益 **12**億97百万円

前期 25億53百万円 計画 15億40百万円

経常利益 **13**億64百万円

前期 28億83百万円 計画 17億50百万円

当期純利益 **26**百万円

前期 2億45百万円 計画 7億40百万円

- 外部環境**
- 国内景気…政府の経済政策により雇用・所得環境は緩やかに改善したものの、個人消費は力強さを欠き、円高進行と消費の低迷から企業業績が伸び悩んだ。
 - 海外景気…中国をはじめとしたアジア新興国の景気が減速し、英国のEU離脱問題や米国新政権の政策運営の動向から、不安定かつ不透明な状況が続いた。

- 業績トピックス**
- 売上は、為替が円高進行したため減収。
 - 利益面では、STAの会計処理問題の再発防止に向けた対策費用および生産性の改善費用、本社ビル耐震工事に伴う事務所の移転費用や物流センターの移設費用が発生したことに加え、持分法による投資利益や不動産賃貸料の減少等があったため、減益となった。

連結業績の事業セグメント別内訳

(単位:百万円)

売上高		当期	前期	前期比増減		期初計画	期初計画比増減	
				(%)	(額)		(%)	(額)
	インテリア	35,410	36,471	△2.9%	△1,060	36,540	△3.1%	△1,129
	自動車・車両内装	56,377	55,926	0.8%	451	54,100	4.2%	2,277
	機能資材	4,087	4,972	△17.8%	△884	4,600	△11.1%	△512
	その他	163	160	1.6%	2	160	2.1%	3
	合計	96,038	97,529	△1.5%	△1,491	95,400	0.7%	638

営業利益		当期	前期	前期比増減		期初計画	期初計画比増減	
				(%)	(額)		(%)	(額)
	インテリア	720	982	△26.6%	△261	730	△1.3%	△9
	自動車・車両内装	3,034	2,471	22.8%	563	3,100	△2.1%	△65
	機能資材	125	135	△7.1%	△9	60	109.9%	65
	その他	96	105	△8.8%	△9	120	△19.7%	△23
	調整額	△2,680	△1,140	-	△1,539	△2,470	-	△210
	合計	1,297	2,553	△49.2%	△1,256	1,540	△15.7%	△242

インテリア事業

カーペットを中心にカーテン、壁紙等を販売

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比(%)	前期比(額)
売上高	35,410	36,471	△2.9%	△1,060
営業利益	720	982	△26.6%	△261

■ 業務用カーペット

水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」の海外輸出が堅調に推移し、国内市場におけるホテル向け新築およびリニューアル案件の受注が好調となったものの、大型案件が少なく、売上は前期を下回った。

■ カーテン

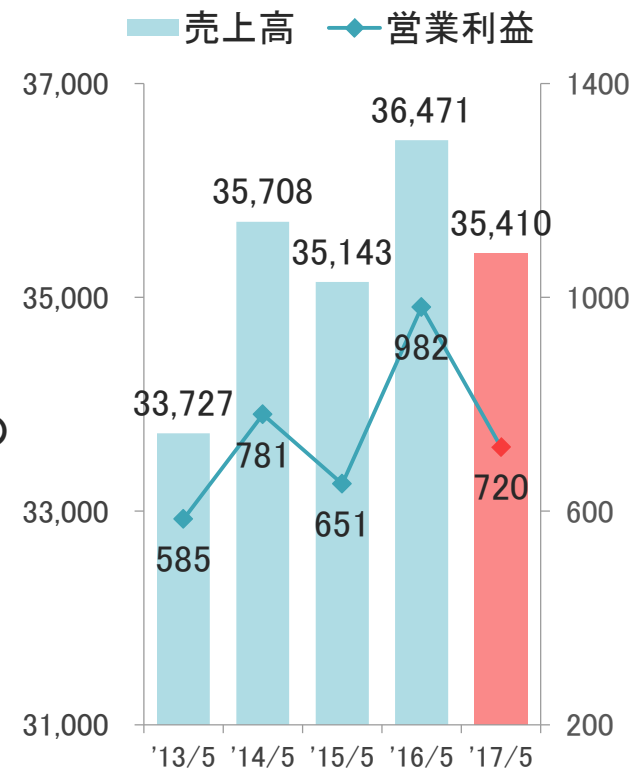
医療・福祉施設向けカーテン「Face」は好調を維持したが、「mode S®(モードエス) Vol.8」「U Life®(ユーライフ) Vol.8」等の一般家庭向けカーテンを含む全体の売上は前期を下回った。

■ 一般家庭向けカーペット、ラグ・マット

個人消費に足踏みがみられ、売上は前期を下回った。

■ 壁紙

「ルノンフレッシュプレミアム」が堅調に推移したものの、量産タイプの「ルノン・マークII」が苦戦し、売上は前期並みとなった。



自動車・車両内装事業

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比(%)	前期比(額)
売上高	56,377	55,926	0.8%	451
営業利益	3,034	2,471	22.8%	563

自動車内装事業

フロアカーペット、シート地、天井表皮材等、
自動車内装材をトータルで販売

■ 国内

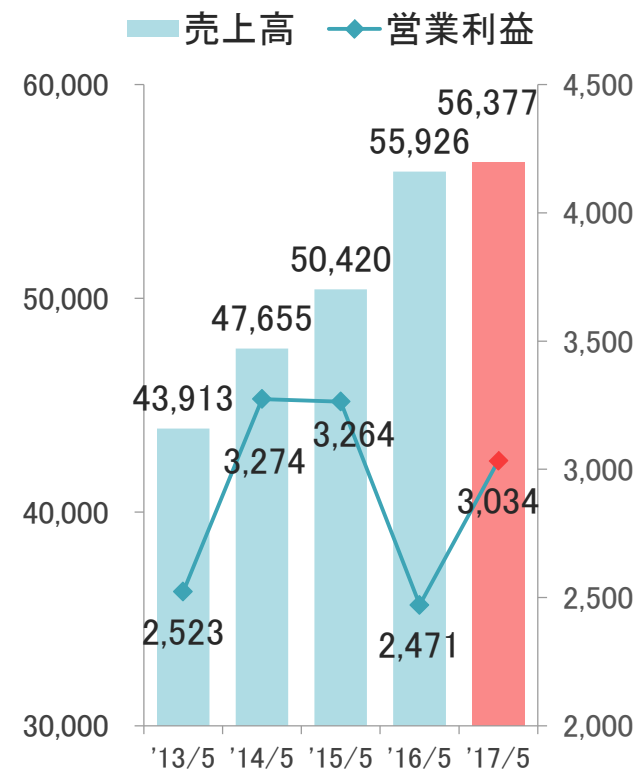
カーペットおよびマット事業の売上が堅調に推移した。
新規部位、新規車種の受注も着実に獲得し、前期比増収となった。

■ 海外

堅実な需要を背景として、特に中国、タイ、インドネシアで売
上を伸ばした。STAでは、人件費の抑制と生産性の改善へ向け
た対策が一定の効果あげた。

自動車関連全体

自動車関連全体では、円高による為替の影響を
受けたものの、新規商材の販路拡大とグローバル
生産体制により、売上は前期を上回った。

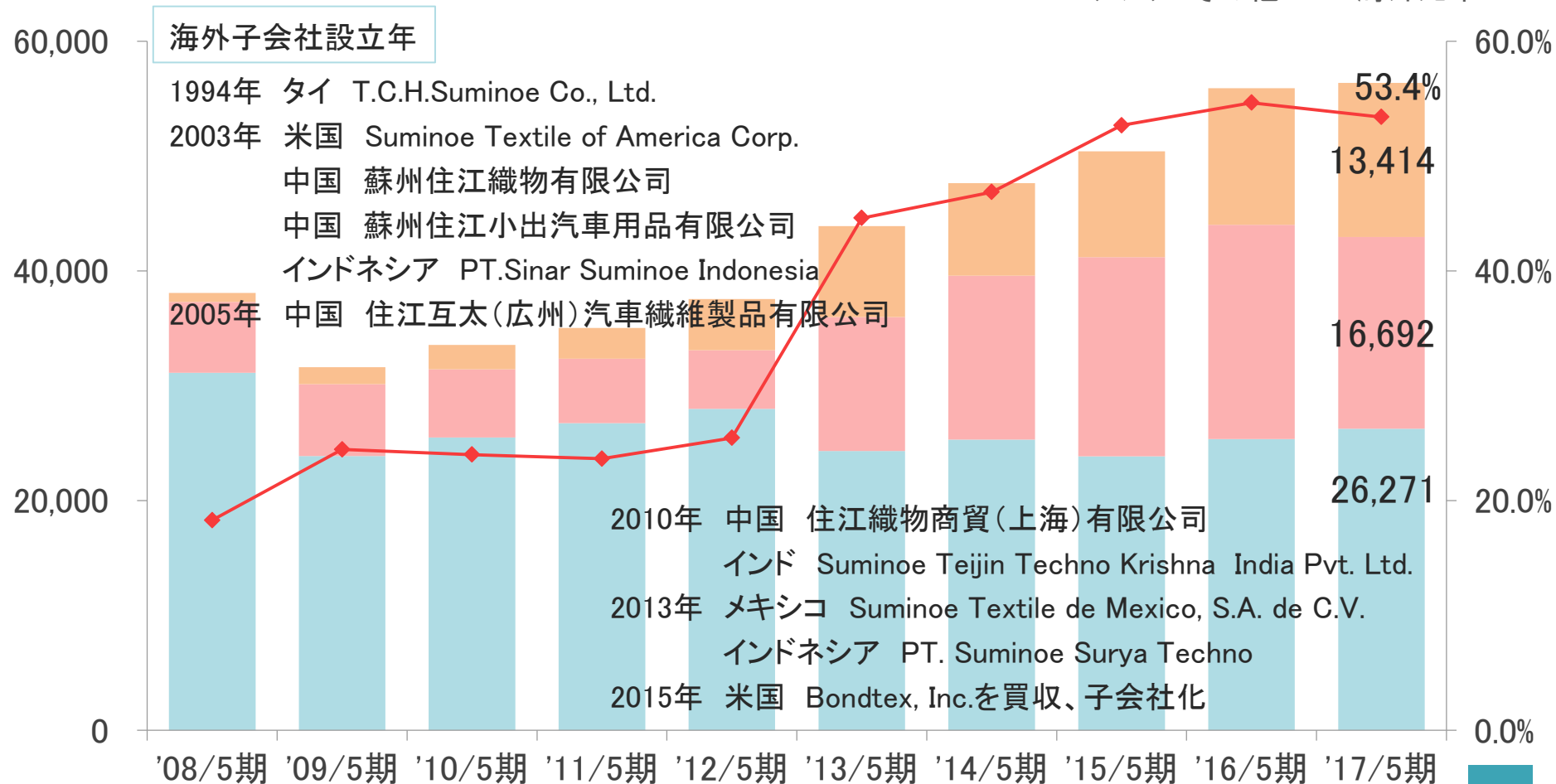


自動車・車両内装事業

自動車・車両内装事業における海外売上高推移

(単位:百万円)

日本 アジア・その他 北中米 海外比率



自動車・車両内装事業

車両内装事業

鉄道・バス・航空機・船舶にシート地やカーペット、リサイクル性に優れたシートクッション材「スミキューブ®」等を販売

■ 鉄道向け

JRおよび民鉄の新車案件やリニューアル改造工事、豪華寝台特急等の受注が好調に推移し、売上を伸ばした。

■ バス向け

新車製造が好調を維持しており、オプション仕様による高付加価値商材の需要拡大と新素材の床表示フィルム等の受注拡大により、売上、営業利益ともに大きく伸長した。

■ 航空機向け

シート地の受注が好調に推移している。

車両関連全体

売上、営業利益ともに前期を大きく上回った。

機能資材事業

機能性資材、ホットカーペット、独自消臭加工技術によるフィルター等の販売等、
新たな分野で事業を展開

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比(%)	前期比(額)
売上高	4,087	4,972	△17.8%	△884
営業利益	125	135	△7.1%	△9

■ ホットカーペット

前期を上回る受注となり、増収増益となった。

■ 浴室向け床材

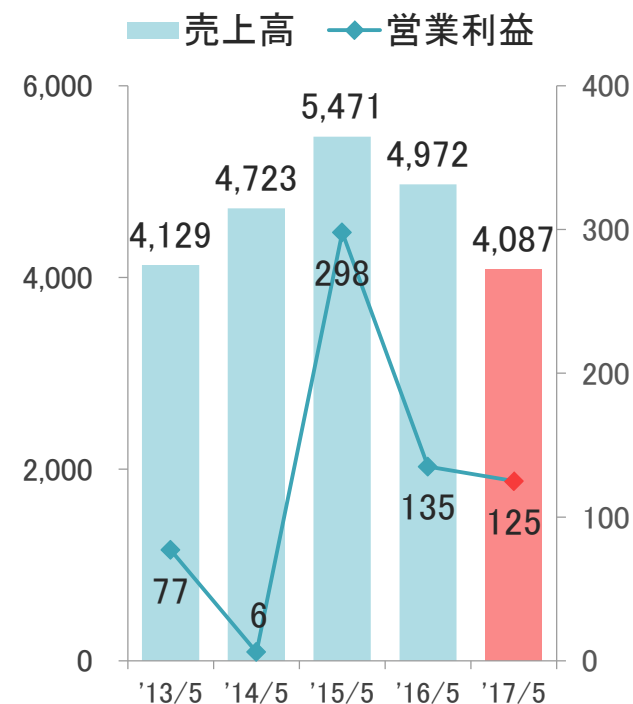
好調に推移したため、増収増益となった。

■ 空気清浄機、暖房機および冷蔵庫向け消臭フィルターや、航空機向けカーペット、学童向け等OEMマット

振るわず、いずれも減収減益となった。

■ 中超住江 デバイス・テクノロジー株式会社について

太陽光電池向けシリコンインゴットのスライス事業を担う中超住江 デバイス・テクノロジー株式会社の当社保有株式の一部を合弁先である株式会社中村超硬へ売却したため、同社を連結の範囲から除外した。



連結バランスシート

(単位:百万円)

	当期	前期
総資産	90,254	86,878
現預金	7,050	7,930
売上債権 ※電子記録債権含む	22,586	22,768
たな卸資産	16,545	15,443
その他の流動資産	4,752	3,666
有・無形固定資産	28,890	27,465
投資その他の資産	10,429	9,602
総負債	52,855	49,700
仕入債務 ※電子記録債務含む	19,236	18,209
短期借入金	12,411	13,128
その他流動負債	4,571	4,622
長期借入金 ※社債含む	6,535	3,830
その他固定負債	10,101	9,908
純資産	37,398	37,178
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,652	2,652
利益剰余金	10,266	10,768
自己株式	△ 362	△ 360
有価証券評価差額金	3,035	2,450
土地再評価差額金	7,797	7,797
その他評価・換算差額	341	454
非支配株主持分	4,113	3,861

現預金

有形固定資産の取得による支出および税金・配当金の支払い等により、前期末比8億80百万円減の70億50百万円となった。

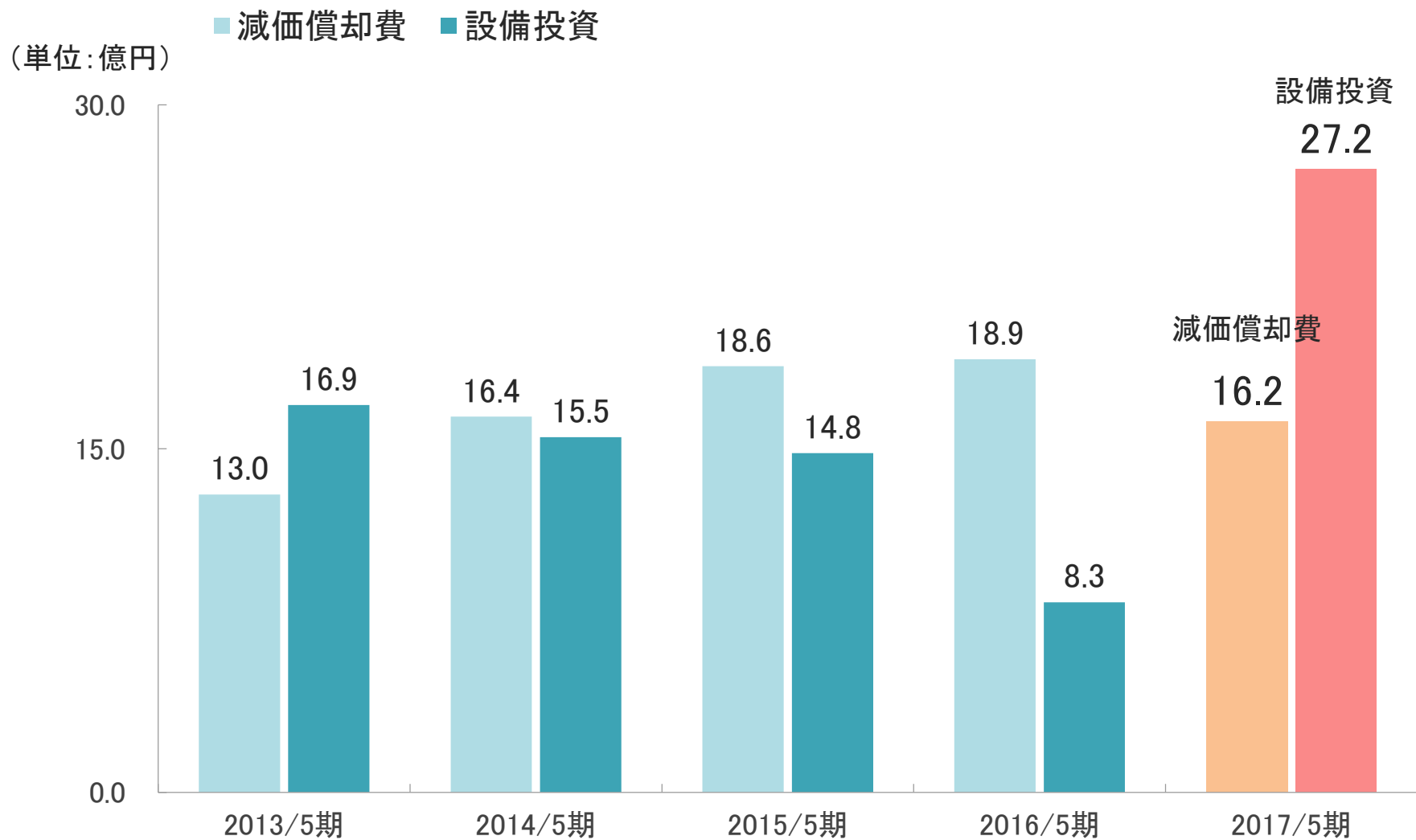
有・無形固定資産

本社ビル耐震工事等により、前期末比14億24百万円増の288億90百万円となった。

借入金(短期・長期)

STA会計処理問題対策費用や住江織物本社ビルの耐震工事費用等により、借入金は前期末比19億87百万円増の189億46百万円となった。

設備投資・減価償却費

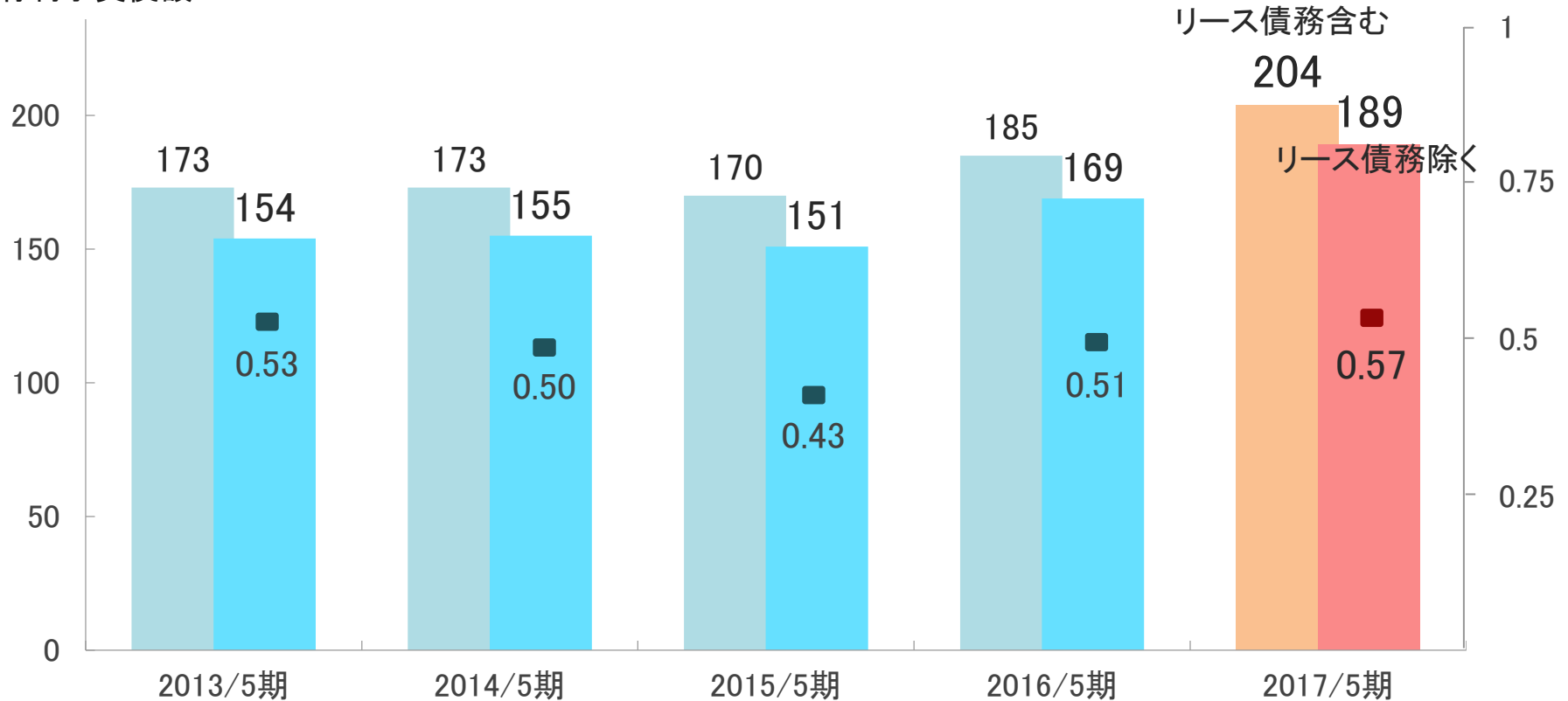


有利子負債

■ リース債務含む ■ リース債務除く ■ DEレシオ

(単位:億円)
有利子負債額

(単位:倍)
DEレシオ



※DEレシオ... $\frac{\text{有利子負債(リース債務除く)}}{\text{純資産(非支配株主持分除く)}}$

2018年5月期 連結計画

売上高 **975** 億円

(前期 960億38百万円)

営業利益 **28** 億円

(" 12億97百万円)

経常利益 **29.5** 億円

(" 13億64百万円)

親会社株主に帰属する

当期純利益 **15** 億円

(" 26百万円)

2017年5月期の特殊要因だったSTAの会計処理問題の再発防止に向けた対策費用や、本社ビル耐震工事に伴う事務所の移転費用、物流センターの移設費用がなくなることから、利益面での押上げを見込んでいる。

2018年5月期 事業セグメント別計画

(単位:百万円)

売上高		当期	前期	前期比増減	
				(%)	(額)
	インテリア	36,920	35,410	4.3%	1,509
	自動車・車両内装	56,710	56,377	0.6%	332
	機能資材	3,710	4,087	△9.2%	△377
	その他	160	163	△2.1%	△3
	合計	97,500	96,038	1.5%	1,461

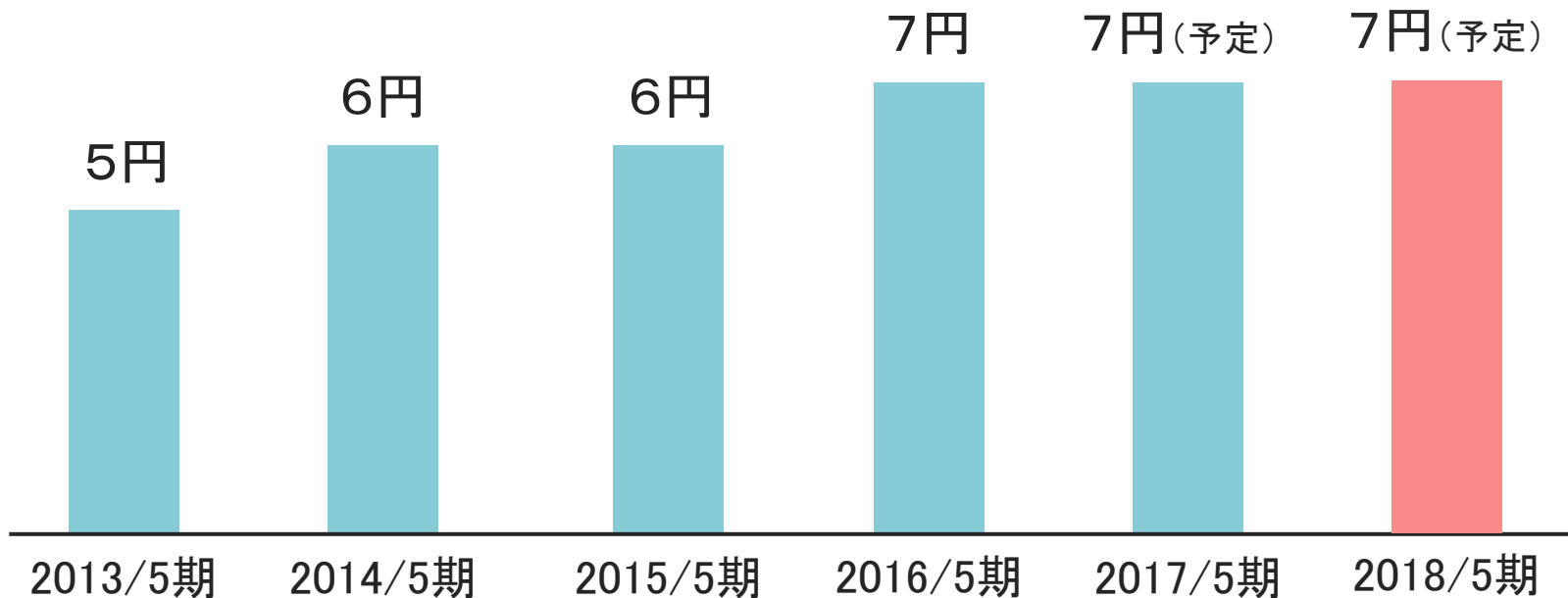
営業利益		当期	前期	前期比増減	
				(%)	(額)
	インテリア	620	720	△14.0%	△100
	自動車・車両内装	3,340	3,034	10.1%	305
	機能資材	140	125	11.1%	14
	その他	120	96	24.5%	23
	調整	△1,420	△2,680	-	1,260
	合計	2,800	1,297	115.8%	1,502

株主配当について

■ 2017年5月期および2018年5月期について

- ・2017年5月期の1株当たりの期末配当は3.5円を予定しており、中間配当(1株当たり3.5円)と合わせて、1株当たり7円の年間配当金を予定。
- ・2018年5月期の配当金も、中間、期末ともに1株当たり3.5円、合わせて年間7円の予定。

■ 配当額の推移



第5次中期3カ年経営計画「2020」

第5次中期3カ年経営計画「2020」

当期は、2015年6月からスタートした中期3カ年経営計画“Advance Ahead 2018”の最終年度にあたりますが、経営環境の変化から計画を見直し、2017年6月をスタートとする第5次中期3カ年経営計画「2020」を新たに策定しました。

テーマ

- 企業ガバナンスの再構築について
- 事業の成長について

第5次中期3カ年経営計画「2020」

企業ガバナンスの再構築について

企業の存続には、事業の成長だけでなく、企業倫理に基づいた健全な事業活動と風通しの良い組織運営が不可欠です。2017年5月期には外部専門家を招き、再発防止対策委員会にてコンプライアンスの徹底に向けた中長期プランを策定しました。

当中期3カ年経営計画では、そのロードマップに沿って下記の施策を推進します。

① 業績管理体制の見直し	<ul style="list-style-type: none">・ 基幹システムの再構築をグループ全社にわたって行い、情報基盤を整備し、効率的かつ効果的なモニタリングを行います。・ 海外子会社の往査も含め、現地・現物の管理体制を強化します。
② 内部統制の再構築	<ul style="list-style-type: none">・ 統制システムの運用、整備状況の再確認、内部通報制度の周知、監査機能の強化等、適正性・実効性があるものにします。・ 経営幹部による歩き回る経営や、中堅社員主導のリスクの洗い出し等、社内の双方向コミュニケーションを推進します。

第5次中期3カ年経営計画「2020」

事業の成長について

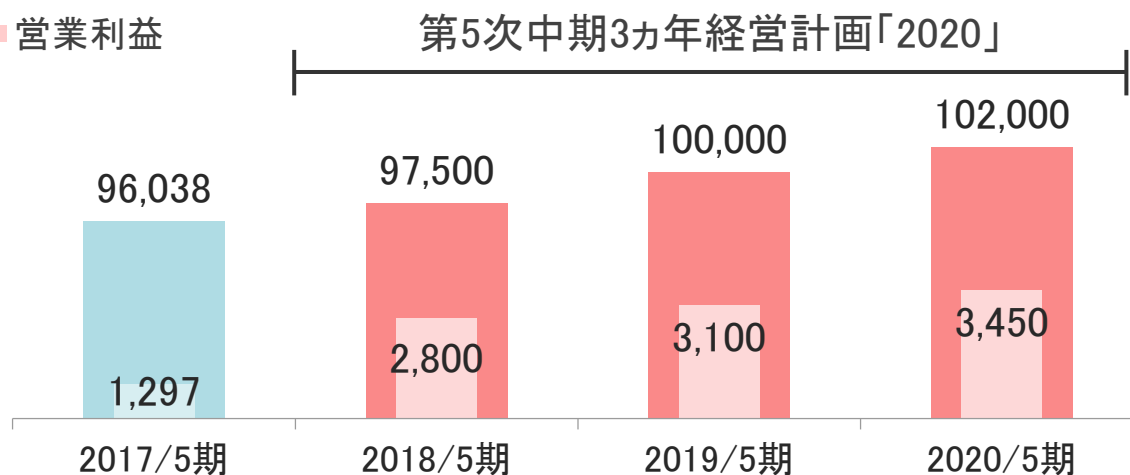
国内、海外ともに自ら変革していかなければ、業容の拡大が見込めなくなっている状況下で、この3年間では、足場を固めつつ、事業の成長に向け下記のテーマに取り組んでまいります。

<p>① 取扱い商材の 拡大</p>	<p>既存のお客様に対し、取扱い商材を拡大します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自動車向け新規商材の受注拡大と、新規部位の展開・ 今秋発売予定のインテリア市場向け高機能・高品質硬質床材の拡販・ 非繊維を含む、車両用安全対策・環境商材の拡充・ あらゆる機能性商材の用途開発による販売拡大
<p>② グローバル化の 強化</p>	<p>既存ビジネスをグローバル市場で横展開します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日系グローバル車種の採用拡大・ 自動車内装事業の国内でのノウハウを海外に移植・ 海外鉄道燃焼規格に対応した新クッション材の確立・ 国際基準に対応した消臭フィルターの開発と海外輸出
<p>③ 高付加価値商材 の開発・販売</p>	<p>ニーズを掘り起こし、高付加価値商材を開発し、販売します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 世界最高水準(再生材比率83%)のリサイクルタイルカーペットECOS®を国内外で拡販・ 多様化する一般家庭向けカーペット、カーテンのニーズへの多品種小ロット対応・ 電気暖房商材に新たな機能を付与し、差別化商品としての開発・拡販を図る・ フィルム・ラミネート技術を応用した新規商材の開発・ スマートファブリックの研究開発

第5次中期3カ年経営計画「2020」

連結数値目標

■ 売上高 ■ 営業利益



(単位:百万円)

	第5次中期3カ年経営計画「2020」			
	2017年5月期	2018年5月期	2019年5月期	2020年5月期
売上高	96,038	97,500	100,000	102,000
前期比	98.5%	101.5%	102.6%	102.0%
営業利益	1,297	2,800	3,100	3,450
営業利益率	1.4%	2.9%	3.1%	3.4%
経常利益	1,364	2,950	3,350	3,750
親会社株主に帰属する当期純利益	26	1,500	1,900	2,200
ROE	0.1%	4.5%	5.5%	6.0%

◎ 中長期的な目標として、営業利益率 5%以上、ROE 8.5%以上を目指しております。

第5次中期3カ年経営計画「2020」

自動車・車両内装事業

■ 自動車関連

海外拠点を含めた内部統制の強化を図り、着実なグローバル展開を推進します。

- 新規部位、新規素材の受注を拡大し、ビジネスの多角化を推進
- 国内で培ったノウハウをグローバル展開し、QCD（品質・価格・供給）の充実を図る

■ 車両関連

東京オリンピックに向けて新車生産や車両改装の需要が高まるなか、安全対策に関する商材をはじめとした新規商材の開発と拡販を進めます。

(単位:百万円)

	第5次中期3カ年経営計画「2020」			
	2017年5月期	2018年5月期	2019年5月期	2020年5月期
売上高	56,377	56,710	58,710	59,680
営業利益	3,034	3,340	3,650	3,960

第5次中期3カ年経営計画「2020」

インテリア事業

商材のさらなる機能充実、コスト競争力強化を軸に、積極的に収益力向上に取り組めます。

- 東京オリンピックに向けたホテル等の建設需要の積極的な取り込み
- 一般家庭向けカーペットやカーテンは、多様化するニーズに対応するため差別化商品を強化
- 壁紙は、需要の高まるリフォーム事業を視野に入れ高付加価値商材を拡販
- インターネット販売の推進
- 今秋発売予定のインテリア市場向け高機能・高品質硬質床材の拡販

(単位:百万円)

	第5次中期3カ年経営計画「2020」			
	2017年5月期	2018年5月期	2019年5月期	2020年5月期
売上高	35,410	36,920	37,300	38,120
営業利益	720	620	640	670

第5次中期3カ年経営計画「2020」

機能資材事業

既存事業の強化とともに、国内外問わず新たな市場への進出に向けて精力的に取り組めます。

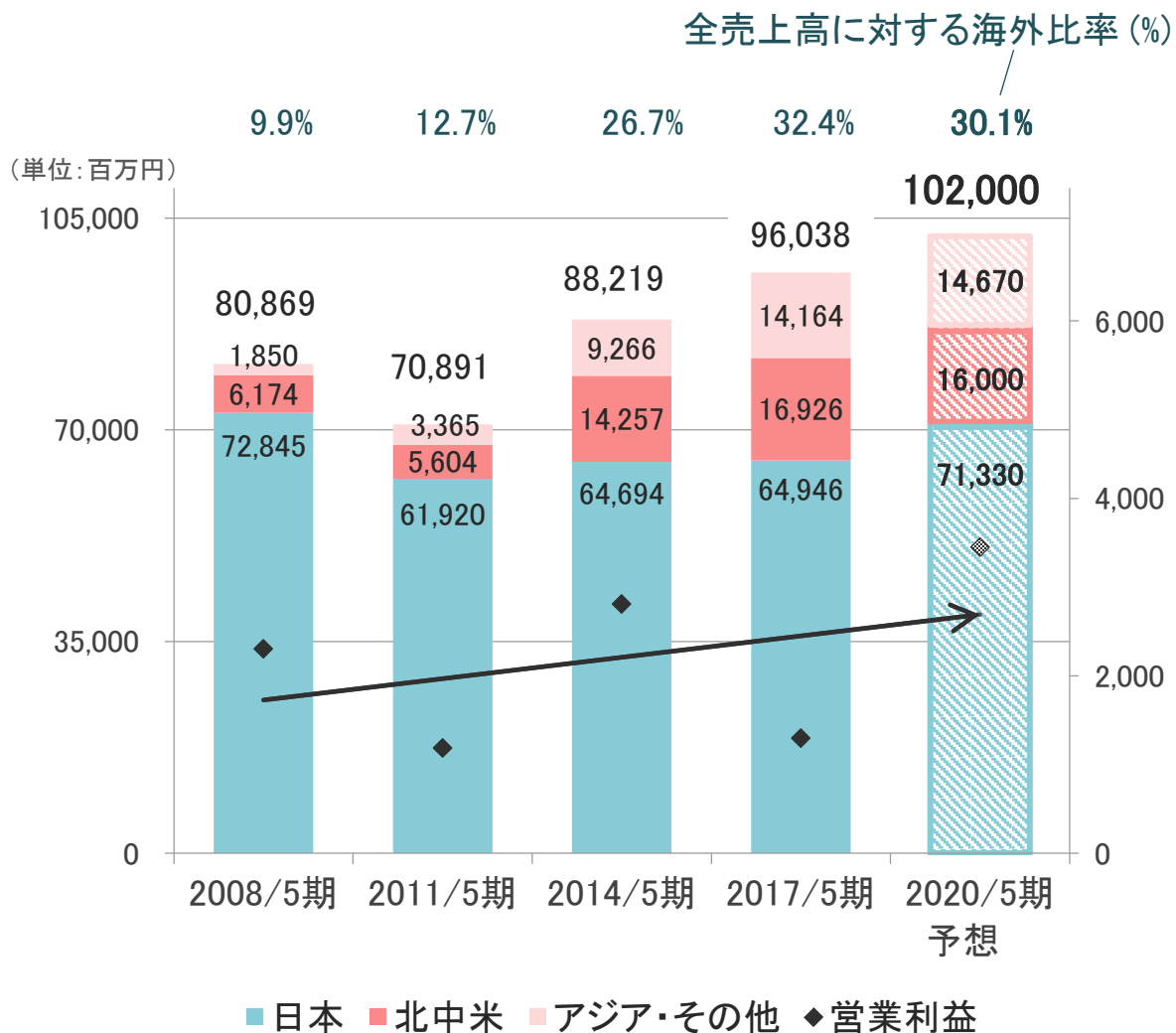
- 電気暖房商材に新たな機能を付与し、差別化商品としての開発・拡販を図る
- 国際基準に対応した消臭フィルターの開発と海外輸出を強化
- 自社の持つ機能性資材や、機能性加工技術、ラミネート技術を応用した新商材の開発
- 航空機向けカーペットは、昨今の世界的な航空需要の高まりを受け、海外も視野に入れた国際競争力のある商品を開発
- 機能性食品事業の推進

(単位:百万円)

	第5次中期3カ年経営計画「2020」			
	2017年5月期	2018年5月期	2019年5月期	2020年5月期
売上高	4,087	3,710	3,820	4,020
営業利益	125	140	170	200

第5次中期3カ年経営計画「2020」

地域別売上高の推移



- 国内は2008年9月に発生したリーマンショック前の水準700億円超へ回復
- 海外は次期成長を見据え基幹システムを再構築し、足場を固め収益力の向上を図る
- 当中計2年目で全売上高1,000億円を達成

第5次中期3カ年経営計画「2020」

■ 投資計画

当中期3カ年経営計画では、事業拡大と基幹システムの再構築に向け、総額68億円の投資を行う予定です。

(単位:億円)

第5次中期 3カ年経営計画 「2020」	国内	海外	IT
	31	22	15

■ 株主還元について

株主のみなさまへの安定的な配当を前提とし、業績の動向と事業拡大への投資を勘案しながら、適正な成果の配分を実施してまいります。
配当時期については、中間および期末の年2回を基本とします。

■ 当資料の将来見通しに関するリスク情報

当資料における当社の今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。